



INDEX

- 1) 今月の1枚: 「ドドマで農業祭」
- 2) JICA in Tanzania: 統計データ
「役立ち情報サイト」
- 3) クリコニ?: 8月のできごと
- 4) JichoのJicho: 「タンザニア大統領」
- 5) カリブ・クワヘリ

(1) 今月の1枚: 「ドドマで農業祭」



8月1日～8日、大規模な農業祭がドドマで行われました。ドドマは協力隊員が市内の木をほとんど植えたそうですが、日本を知らない人さえいるのに驚きます。

そこで日本・JOCVをアピールしようと、ドドマにいる6名の隊員で農業祭へ出展をし、折り紙教室や緑茶の試飲、日本を紹介した本、隊員紹介のパンフレットやカレンダーの閲覧を行いました。また、ドドマの名産物チョーヤ(ロゼーラ)を使って作ったワインの試飲も行いました。

展示ブースはドドマ市役所の一部を借りることができ、たくさんのタンザニア人が興味を持って日本を見てくれ、楽しい交流の時間を持つことができました。展示会場には**キクウェテ大統領**も訪れ、私たちを見てすぐにJICAの協力隊員だとわかってくれ、大変喜んでくださいました。

最終日、ドドマ市役所のブースがドドマ州の展示場の中で1位、全体の展示場の中で3位になり、トロフィーが来ました！協力してくださった方々、来場してくださった方々、ありがとうございました。(ドドマ 樋渡ますみ隊員)

(2) JICA in Tanzania: 統計データ 「役立ち情報サイト」

2005～7年はJICAタンザニア事務所の企画調査員、2007年からは、「貧困モニタリングデータ管理」支援のためのタンザニア国家統計局への個別専門家として活動してきた安居専門家が、今月、活動を終了します。最後にお役立ち情報を提供してもらいます。

タンザニアの経済や統計に関連して、これまで3度(2006年7月号、2007年2・3月合併号、2008年11月号)にわたってお話しをする機会を頂きました。ちなみに前回は、統計データには「行政データ」と「統計調査データ」という2つの範疇があり、それぞれがかなり別物...といった内容をご紹介しました。機会があれば、各々の長所・短所等を踏まえつつ、それぞれについて、もうちょっと詳しくお話しできれば...とも考えていたのですが、今回は、いよいよ最終回ということもあって、ご参考までに、私自身が折に触れ利用してきた「役立ち情報サイト」を共有したいと思います。これらのサイトからは、過去の統計データ等もダウンロード可能なので、一度は是非、覗いて見ると良いでしょう。

統計データを読む際に、ここであらためてお伝えしておきたいのは、(特に途上国のコンテキストでは)似通った内容を示すデータが、時として矛盾した結果を示すことも、決して少なくないということです。もちろん統計局や省庁などの統計を作る側(統計の生産者)は、常に誠実に数値を提供するよう心がけていますが、様々な事情により、時にはそれにも限界があります。

それゆえに、みなさん(統計の需要者)の方でも、各種のレポートなどから統計情報を入手した際、この統計データは一体どこからどうやって得たものなのか、そのデータソース等に自ら常に注意を払って読み取って頂きたいのです。そうすることによって、「行政データ」か「統計調査データ」なのかも一目瞭然とすぐに判ります。さらに、対象となる母集団がタンザニア全土に渡るのか、はたまたザンジバルを除く本土のみ¹なのかも、容易に認識できます。

¹ 当地の統計では、本土のみを対象とすることが往々にして多いので注意が必要です。ザンジバルに関しては Office of Chief Government Statistician, OCGS が別途公表しています(公式サイト参照)。



Web 名	URL アドレス	主な内容
国家統計局の公式サイト	www.nbs.go.tz	国家統計局(National Bureau of Statistics, NBS)が運営している。統計調査の結果や報告書が開示されている。本土側の消費者物価指数も毎月公表。
ザンジバル統計庁の公式サイト	www.ocgs.go.tz	ザンジバル統計庁(Office of Chief Government Statistician, OCGS)が運営している。統計調査の結果や報告書が開示されている。本土側の消費者物価指数も公表。
タンザニア社会経済データベース	www.tsed.org	タンザニア主要経済データ、行政データ、統計調査データを集めたデータベース(TSED)のサイト。ウェブ上からもデータ検索が可能。
Tz online	www.tzonline.org	タンザニア開発関連のドキュメント格納サイト。各種報告書を PDF 形式でダウンロードできる。
Tanzania Development Gateway	www.tanzaniagateway.org	タンザニアの開発にかかる情報の共有及び新たな知識の普及を促進するために開設されたポータルサイト。各種リサーチペーパーなども検索できる。
REPOAの公式サイト	www.repoa.or.tz	調査分析作業部会の事務局を勤めている REPOA(研究機関)のサイトで、貧困と人間開発報告書(Poverty and Human Development Report: PHDR)がダウンロード可能。
DPG公式サイト	www.tzdpq.or.tz	タンザニアにおけるドナー側の情報共有サイト(IDとパスワードが必要)。
貧困モニタリングの公式サイト	www.povertymonitoring.go.tz	財務省の貧困撲滅局が運営している公式サイトで、貧困モニタリングシステムにかかる広報が主目的。
タンザニア政府の公式サイト	www.tanzania.go.tz	政府関連の情報を中心に開示している。ゲートウェイとして活用すると有用。Economic Survey がダウンロードできる。
教育省の公式サイト	www.moe.go.tz/statistics.html	行政データに基づく過去の政府統計(BEST)がダウンロードできる。
農業省の公式サイト	www.kilimo.go.tz	農業セクターの過去の統計データがダウンロード可能。

また、途上国では一般に、正しくサンプリングがなされていれば、調査対象の個体総数は少なくとも「統計調査データ」の方が、精度ははるかに高い(すなわちバイアスが少ない)と考えて良いでしょう。但し「正しいサンプリング」というところが、実は曲者で、中にはちょっとあやしいサンプリングに基づく統計調査もあるかもしれません。その昔、「統計でウソをつく法」²なる良書が版を重ねたことがありました。是非、数値そのものを妄信せず、常識を大いに働かせて、上手に統計データを活用するよう努めてほしいと思います。

最後になりましたが、タンザニア在勤中、世話になった方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。2000年5月からの大使館勤務を皮切りに、JICA 事務所そして統計局と、その都度、職場や立場を変えつつ、微力ながらも今日まで、タンザニアという一つの国といっしょに仕事をすることができました。これもひとえに、所属機関、国籍、肌の色を問わず、たいへん多くの方々にご指導頂いた賜物と思っております。末筆ながら、皆様のさらなるご活躍をお祈りしております。日々、少しずつ、ひとつひとつ、でも確実にタンザニアが良くなって行くことを願いつつ…。 “Tutaonana!”

(安居信之)

² Darrell Huff 著、高木秀玄訳、“(原題) How to lie with statistics”, 講談社, 1968. 他の最近の類書としては、例えば、谷岡一朗著 『「社会調査」のウソ』 文藝春秋 2000. Joel Best 著、林大訳 『統計はこうしてウソをつく』 白揚社 2002. などがあります。



(3)く・り・こ・に? 8月のできごと

ここでは、8月の JICA の活動を紹介します。Kulikoni? とはスワヒリ語で「何があったの?」の意味です。Karibuni! (ようこそ!)



8月3-11日：関西地方教師海外研修
関西地方の現職の先生方8名が、タンザニア各地の JICA 活動現場を訪問しました。

都会のダルエスサラーム、地方のムトワラ市、さらに田舎の村を訪問し、都市と

村の格差なども見ていただき、経験や年齢層も様々な先生たちに、初めてのアフリカを肌で感じてもらいました。

訪問各地で多くの子供たちに歓迎され、日本と異なる環境の中で元気に生きているタンザニアの人たちと関わる中で、「幸せって何?」「貧しいって何?」「援助って何?」とたくさんの方のことを考えられ、何度も話し合いをされました。

今後、日本の学校で、この研修で経験したことを通して授業を行ってもらいます。先生たちが何を伝えられるのか、子供たちが何を感じるのか、とても楽しみです。

8月17-31日：中部大学スタディツアー
国際関係学部の学生さん5名が、タンザニアでエイズ対策、村落開発、理学療法といった分野で活動する青年海外協力隊の配属先を訪問しました。

日本ではあまり触れられないエイズ問題や、アフリカの農村風景が印象に残ったようです。また、日本でタンザニアのことを勉強して来たそうですが、目で見る、肌で感じるタンザニアは想像していたものと大きく違ったようです。日本のこと、タンザニアのこと、世界のこと、将来のことを考えるいい機会になったことと思います。

[HIV 感染予防のための組織強化プロジェクト]

8月8日-15日：マダガスカル「エイズ予防対策強化プロジェクト」視察団訪問
マダガスカルから同プロジェクトの専門家と保健省のカウンターパート計5名の視察団がタンザニアの当プロジェクトを訪れました。

タンザニアでは普及率の高い HIV の自発的カウンセリングと検査(VCT)も、HIV 感染率が低い(0.1%以下)と言われるマダガスカルでは、まだまだ普及していないとのことで、視察団はカウンセリングの標準手引書を普及させるための研修へも訪れました。研修参加者と視察団の交流会では両国の VCT に対する人々の認識の違いや国家 HIV 対策に関して熱い議論が交わされ、VCT を広めるための有効なアプローチをタンザニア側から提言するような場面も見受けられました。一人でも多くの方が HIV 検査やカウンセリングを受け、健康な生活が送れるようにという、両国の熱意を感じる機会となりました。

(OJT 職員 伊藤友美)



[マサシ・マンガッカ間道路整備計画] 8月21日：記念碑落成式典

ムトワラとソングアを結ぶムトワラ開発回廊の一部であるマサシ - マンガッカ間の道路整備計画に関連して、マサシ市内で記念碑設置式典がキクウェテ大統領参加のもと開催されました。この道路整備により、タンザニア南部の流通網、タンザニアとモザンビーク両国間の交流が活発化し、経済発展にも貢献することが期待されます。

式典には地元マサシの住民が多く集まり、歌やダンスなどの文化イベントも行われました。式典の様子は現地マスコミでも報道され、日本が行っている協力事業について広くタンザニア国民にも伝わったものと思います。

地道な協力を続けつつ、このような機会を通してタンザニアの人達に日本の協力の成果が伝わることにより、今後も両国の良い関係が継続されることを願ってやみません。

(道路担当 丸尾所員)



[灌漑農業技術普及支援体制強化計画(タンライス)]

8月17-20日：稲作研究者ワークショップ

タンライスでは、NERICA の品種登録に向けた研究を支援しています。今回のワークショップには、農業省や農業研究所から稲作研究者など約25名が集い、それぞれの研究所で行われているNERICAの品種選定のための試験結果の発表を行いました。現在、18種から7種まで品種が絞られ、早ければ今年中に数種のNERICAが登録され、タンザニアで普及が始まる予定です。

ワークショップでは嗜好テストも行われ、参加者は名前を伏せた4種類の米を試食し、味・色・アロマ(匂い)について点数をつけ比較しました。これは収量や栽培地への適正だけでなく、タンザニア米市場への流通へ向け、タンザニア人の嗜好を把握するためのテストです。

日本が進めるNERICA普及の現場で、タンザニア研究者とJICA専門家の努力が積み重ねられていることを知り、勉強になりました。

(OJT職員 佐藤隼人)



8月24-45日：

青年海外協力隊

理数科教師

ワークショップ

配属先のNachingwea Secondary Schoolにて、JOCV、タンザニア人理数科教師が一緒になり、模擬授業、そしてその評価、Teaching Aid作成を行いました。

普段のタンザニアの授業は、実験や実践が少なく、一方的に教えて板書して終わり、ということが多いこともあってか、皆楽しそうにTeaching Aidを作成していました。その姿を見て、開催下準備のテンヤワンヤを少し癒すことができました。

準備中には、タンザニア人のマイペースさやPole poleに毎日ヒヤヒヤし、でも本人達には毎回“Hamna Tatizo(問題ないよ)”と一蹴され、問題ない訳なからう！！と心で叫び、時には口に出し、今に始まったことではないですが、しかしこの機会を通して、同僚をはじめタンザニア人の良い面も更にクローズアップされ、それに触れることができ、よい経験になりました。

(20-2 橋村久美子隊員)

[LBT 研修能力強化プロジェクト]

8月1-9日：農業祭へ出展

雨期になると通行不可、または普段の2倍時間がかかる道。直してほしいけど市役所に頼んでも費用が無いと後回しにされる…。タンザニアの農村部でよくある話ですが、この状況を解決する一つの方法が、ATTI(Appropriate Technology Training Institute)で教えているLBT(Labour Based Technology)という工法です。

この工法の存在及び技術をより多くのタンザニア人に伝えるべく、ドドマで開かれたNanenane(農業祭)に、ATTIも10数名のスタッフとともに出展しました。MbeyaのNanenaneには過去数回出展していましたが全国規模Nanenaneは初。どのような反応が来るか期待と若干の不安がありましたが、ドドマは道路整備が必要な場所もまだまだ多く、このような工法があるなら是非学びたい、使いたい、と多くの人の関心を得ることができました。

(20-3 部 佳恵隊員)



8月17-21日：青年海外協力隊

自動車部会ワークショップ

タンザニア全土から選ばれた職業訓練校自動車整備科教員28名を対象とした電子制御式噴射装置(EFI)のワークショップをJICAとVETAの支援によりタンザニアJOCVの自動車部会メンバーが講師となり行ないました。

会場となったタンザニア南東部に位置するムトワラ職業訓練校は約8年前に日本の支援で立てられ、現在も自動車整備のJOCVが配属されています。

EFIワークショップは、5日間行なわれ、EFIの基本作動から故障診断、授業用の教材作成まで行いました。

自動車部会一同、サポートしてくれたJICA並びにVETA HQに深く感謝しています。また、協力してくれた後輩隊員に感謝すると共に、最初から最後まで協力していただいた協力隊調整員、JICAスタッフの方々に深く感謝しています。

(19-2 野川敦司隊員)



(4) JICHO の JICHO : 「タンザニア大統領」

(長谷川次長)

スワヒリ語で Jicho は「一つの目」の意味です。タンザニア事務所「じちょう」の見たタンザニアです。

8月下旬、タンザニア南東部で現在、無償資金協力により工事が行われている「マサシ マンガッカ間道路改修計画」の記念碑落成式典に出席しました。(編集注:3頁くりこに参照)

この事業は「ムトワラ経済回廊」の一部であり、南東部の主要な港があるムトワラとタンザニア内陸部、及び、国境を越えてタンザニアとモザンビークやマラウイとの間を結ぶ幹線道路の一部分となります。

タンザニア南東部、南部
アフリカ地域の活性化を
もたらす国際物流ルート
としても期待されている
道路です。



道路横断排水施設の改修

今回の落成式典にはキクウェテ大統領が出席すると聞いていました。タンザニア国内では、比較的開発が遅れている南東部における無償資金協力事業のセレモニーに大統領自らが出席するということがどのような意味を持つのか、また、空港もないマサシに大統領がどのような手段で移動するのか、などなど、興味は尽きませんでした。また、本当に大統領自らが出席するのかという疑いを抱かないわけでもありませんでした。

さて、式典前日のお昼過ぎにムトワラ空港に到着した我々は、ムトワラで昼食をとることにしました。例によって、昼食に1時間以上かかって2時半ごろにマサシに向かって出発しましたが、その道中で車が前に進まなくなってしまいました。いくら経済回廊として期待が高いといっても現状では大渋滞が起こるような道路ではないはず…。実は、大統領

ご一行の数十台からなる車列が我々の前を走行しており、途中通る村々で大統領が立ち止まり、演説を行っていることがわかりました。そのため、我々の車もそれらの村々で「休憩」を取るようになりました。だいたい、5分走って10分休憩という



式典で住民と握手するキクウェテ大統領

リレーエッセイ

~ Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania ~

(20-2次隊 富田翔さん)

「空手教えて?」と言ってきた私の家の警備員。

今では一番弟子のハイダール。

“私スワヒリ”をスワヒリ語に通訳し、他のタンザニア人に説明してくれる。

「いつも教えてもらってるから」と

バナナを買ってくる律儀な面がある一方、

「ビーチに行こう」と誘っておいてすっぱかす、

やはりタンザニア人な一面を持つ彼。

先日、泥棒を撃退、アスカリとしても優秀です。



次回は、大きな町に行くとお酒を買いだめして帰るコログウェの柴田さんをお願いします。

感じでしょうか。

いずれの村々でも、大統領の演説場所に向けて多くの人々が足を運んでいる様子であり、車が走り出すと、大統領が演説をしていたと思われる場所には「どこから集まったのか?」というほど多くの人々が興奮冷めやらぬ様子で我々の車にも手を振っていました。単にVIPが来るのが珍しいだけでこれだけの人が集まるのかと不思議にも思いましたが、やはり、大統領の人気は高いものがあるのだと実感しました。

翌日の式典にも、前日の沿道に劣らない数の人々が平日にもかかわらず集合しており、大統領の登場(予定よりも1時間も遅れていましたが)のときには、会場いっぱいという状況でした。大統領の演説も20分の予定を大幅に超え、1時間にもわたる大



演説でした。ほとんどはスワヒリ語でよく理解できなかったものの、本来の式典の目的である道路については当然のこと、その他地域が抱える課題を網羅した演説であったようです。

選挙が近いこともあり、かなり選挙に向けたキャンペーン的な雰囲気があったことは事実ですが、国の元首である大統領が1時間もかけて国、地域の課題・取り組みについて直接語りかける場があるということは、国民にとってはとてもインパクトのあることだと感じました。



式典で除幕された記念碑と
(右:筆者、左:丸尾所員)

マサシの人々の印象に残るイベントとなったように、日本の支援で完成する道路も人々に愛される道路になってくれることを期待します。

協力隊19年度2次隊の5名が、2年間の任期を終了して9月23日、タンザニアを離れます。代表して、赤星隊員よりの挨拶です。

皆様お世話になりました、19年度2次隊総勢5名、揃って帰国します。日本とは全く違う価値観・常識のなか、それぞれ孤軍奮闘してきたことと思います。

他力本願で口先ばかり、もーっと、タンザニア人によく腹を立てていましたが、どんなに悲しいことがあっても明るく、困っている人を放っておかない優しいところに良さを感じます。

TZの人々の温かさや子供達の屈託ない笑顔、いつまでも忘れたくないと思います。草の根レベルの活動が、いつか根を張り、芽吹くことを祈って...

この貴重な2年間の経験を、社会に還元していきたいと思っています。「終わり良ければ全て良し！」皆様、ありがとうございました。

(5)カリブ・クワヘリ

~ようこそタンザニアへ! お元気で! さよなら~

~! さようなら! お元気で! ~

タンザニア事務所で3年間活動しました西直子所員が、9月27日、タンザニアでの任期を終了します。

2006年10月に着任してから早くも3年経ち、タンザニアを離任することとなりました。タンザニア在任中、皆様には大変お世話になり感謝しております。

保健分野、教育分野、ガバナンス分野、研修事業に従事する機会を得て、タンザニアを様々な観点から見ることができました。また、日々、より良い未来のために考え、行動を起こされているカウンターパート、専門家、協力隊員等の皆様と、この時期のタンザニアで一緒にできたことを、誇りに思います。

変化し続けるタンザニアですが、大らかで優しい人達がいっぱいいて迎えてくれることを願い、またいつか、この地に帰って来たいと思います。皆様のご健康と安全、充実したタンザニアライフをお祈りしています。



中川日本国大使への帰国表敬

JICA タンザニア事務所: P.O.BOX 9450 Dar es Salaam
Tel: :255-22-2113727-30、 Fax: :255-22-2112976

<http://www.jica.go.jp/tanzania/>

パモジャ(Pamoja)編集部: 皆様からのご意見や、Goodな情報の提供をお願いします!

adachifumiko.tz@jica.go.jp

